

第11回鹿野川ダム水質検討会

平成27年のダム湖水質等の概況

1. 気象状況
2. 水質改善装置の運用状況
3. アオコ発生状況
4. 溶出負荷抑制対策状況



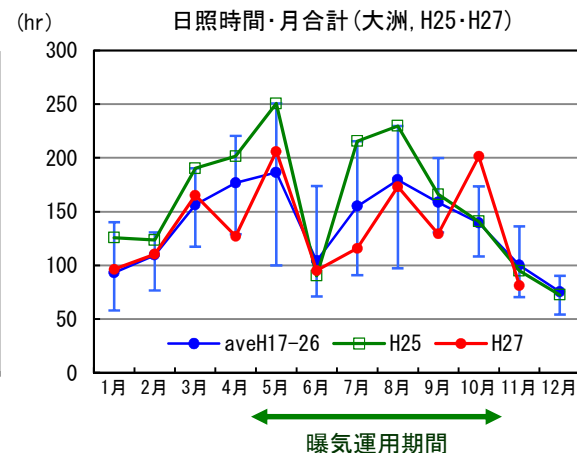
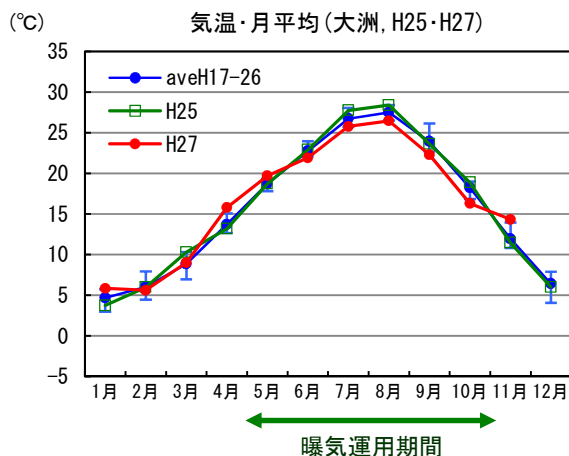
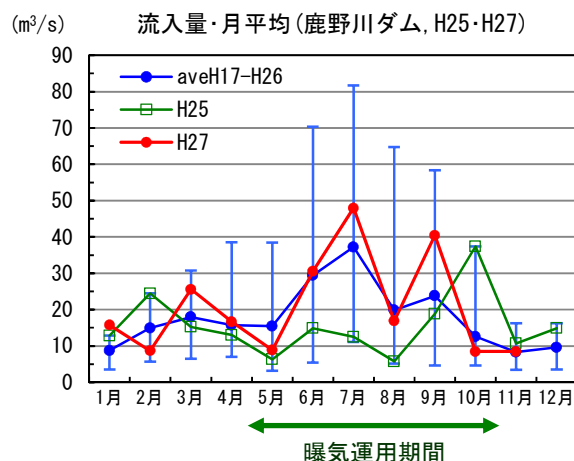
1. 気象状況

1. 気象状況

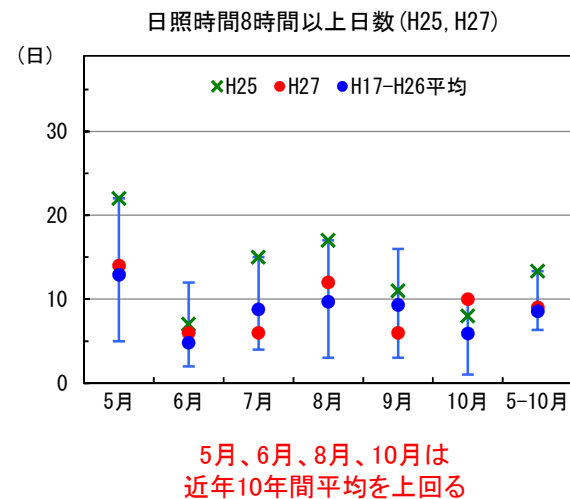
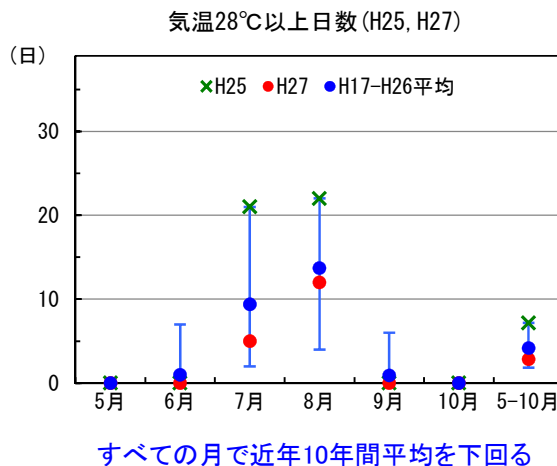
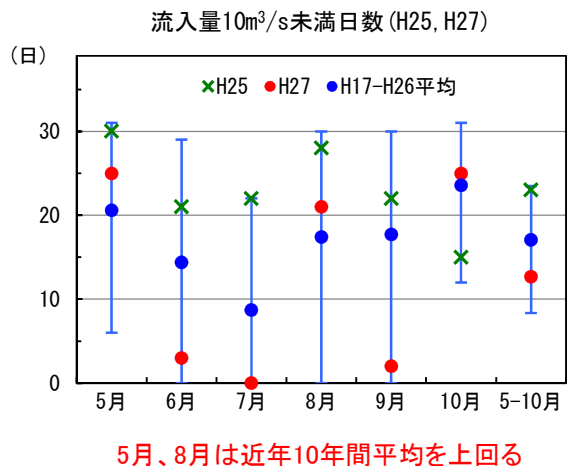
平成27年の気象状況

- 平成27年は、近10年と比較すると平均的な気象状況であった。

■ 月毎の流入量・気温・日照時間



■ アオコが発生しやすくなる気象状況の超過日数(5-10月)



5-10月は
同期間の平均

※H25は、近年10年間で5～8月の気温・日照時間が最大、流入量が最小であり、最もアオコが発生しやすい年であった。

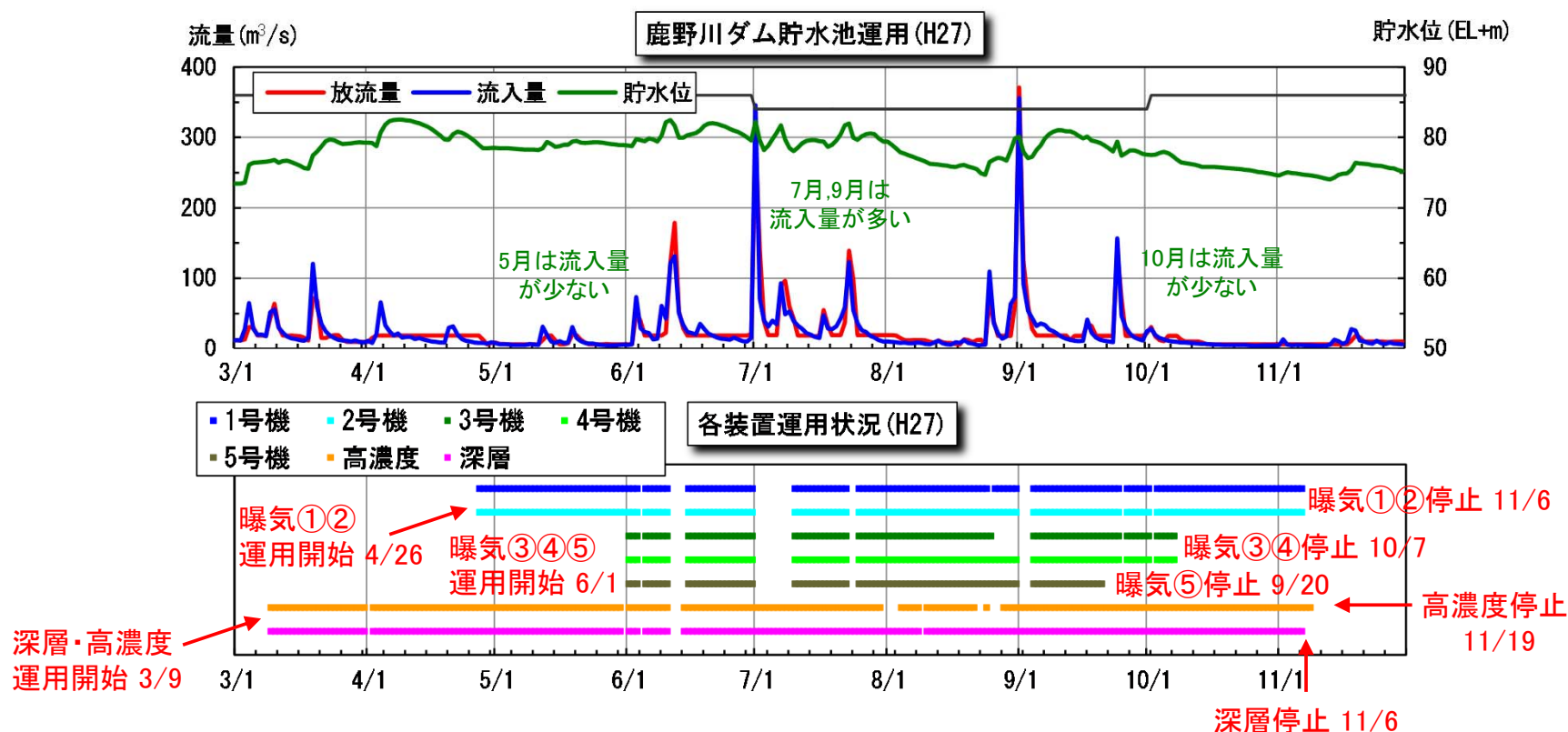


2. 水質改善装置の運用状況

水質改善装置の運用状況

- 曝気循環装置は、4/26～11/6の期間で運用を行った。5基運用は6/1～9/20の期間で、その他の期間は2～4基で運用を行った。また、4/26～5/14、6/5～6/10、9/21～11/6は、運用時間を6～17時に短縮した短縮運用を行った。（その他は24時間運用）
- 深層曝気装置、高濃度酸素水供給装置は、3/9～11/19の期間で運用を行った。両装置とも原則24時間運用とし、6月中旬以降は出水時も停止せずに連続運用を行った。

■ 水質改善装置の運用状況





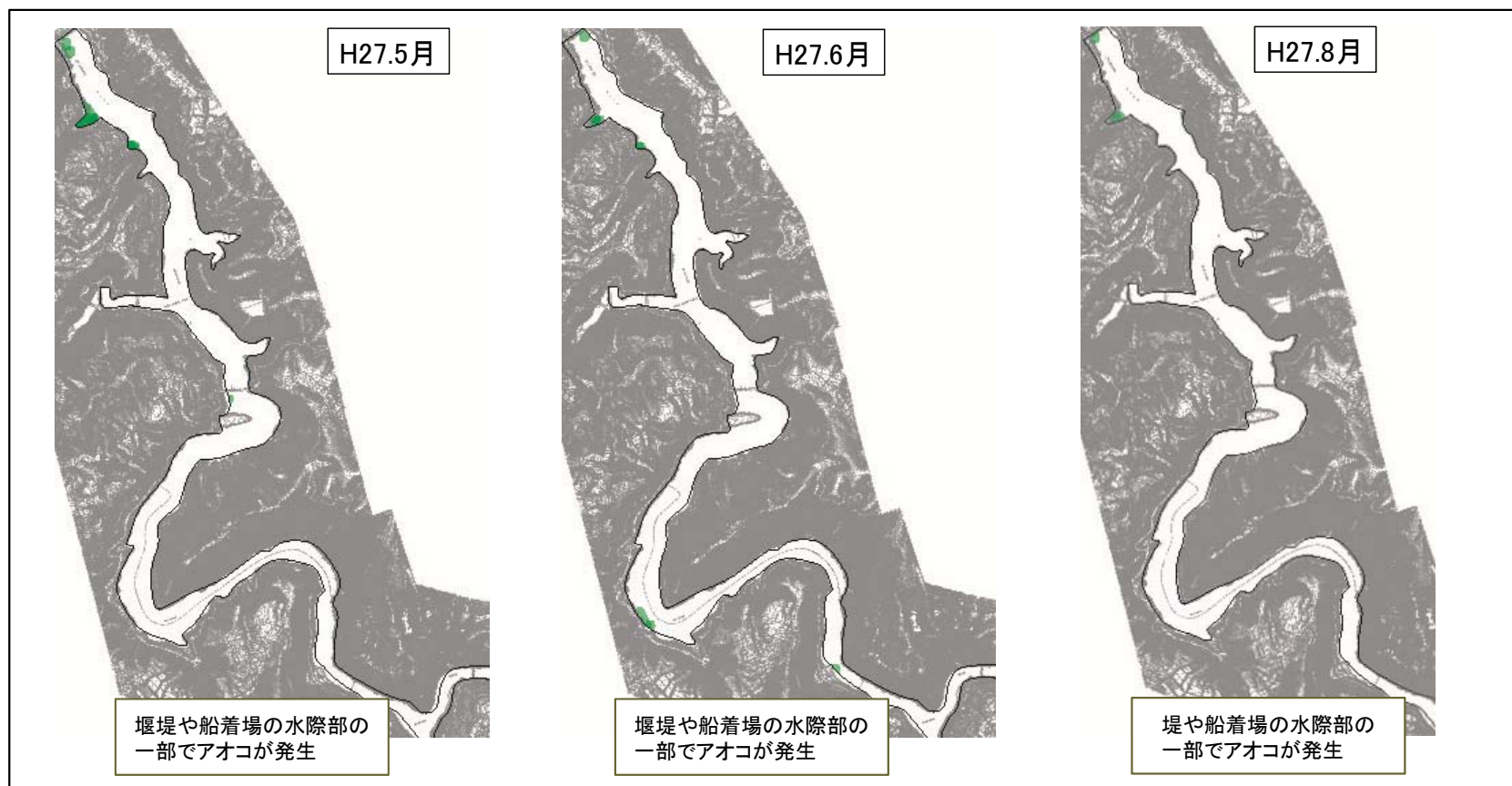
3. アオコ発生状況

平成27年のアオコの発生状況

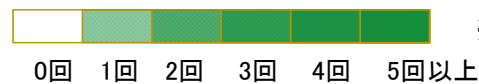
- 今年度(H27)は貯水池全体に広がるアオコは発生しなかった。

■ アオコ発生状況平面分布(H27.5～8月)

曝気運用後



※H27.7月はアオコ発生なし



※巡視(1週間に2回程度)による確認回数を濃淡で示している。



4. 溶出負荷抑制状況

4. 溶出負荷抑制対策状況

水質の季節変動(堰堤近傍)

■ 深層曝気装置、高濃度酸素水供給装置の運用後は、DOが改善され、リン、窒素、マンガン、鉄の溶出が抑制された。

■ 貧酸素化が顕著な8月にはDOが低下した。(両装置が2時間停止していた影響もある)

■ 水質調査結果(0.05k、底上1m)

